



① 横山丘陵緑地



横山丘陵緑地は、下九沢の作の口地区の国道129号線から道保川公園に至る斜面樹林で、相模原の骨格となる緑地となっています。緑地内には、上溝・下溝地区に伝わる「てくてく姫伝説」に思いをこめてながら散策が楽しめる「てくてく姫の里ロマン探訪の小路」が整備されています。

② 榎神社



照手姫を祭神とした神社で、「かながわの路木百選」に選ばれた、高さ20mの大エノキが神社のシンボルとなっています。なお、初代のエノキは、照手姫の杖が根付いた「逆さエノキ」と伝えられています。

③ 横山公園



横山公園は相模原市のほぼ中央、緑豊かな横山丘陵の上段に位置しており、野球・テニス等のスポーツ・レクリエーションに広く利用されている運動公園です。平成10年に開催された「かながわ・ゆめ国体」夏季大会のメイン会場として総合水泳場「グリーンプール」を整備、平成11年度には公園の顔となる西側エントランスの整備が完了し、全面開園となりました。

⑤ 上溝駅



現在の相模線は相模軽便鉄道として昭和6年に開通しました。当時、現在の上溝駅は「相模横山駅」といっていたため、上溝に来る人が駅の名までずいぶん歩かなければならなかったもので、後に現在のような駅名に改めました。平成14年に全面的に改築し、現在の駅舎になりました。

④ 光と緑の美術館



「太陽の光や自然の緑が人間にとって不可欠なものであるように、芸術作品も私たちがどって無くてはならない身近な存在であることを地域の人々に感じて欲しい」この考えの基に地元上溝在住の市民の方が平成6年に開館した個人美術館です。

⑥ 馬坂の碑



現在では廃道になった「うま坂」の記念碑が、地域の人々によってたてられています。これには、昔、武田の軍勢が小田原城を攻撃するさいに上溝の農民も加勢しようとして、この坂を馬を伴って滑りながら通ったという話が記されています。

⑦ 亀ヶ池八幡宮



応神天皇を祭神としています。亀ヶ池の名称は、社殿の東側にあった亀がたくさんいた池の名にちなんだといわれ、明治2年に正式に「亀ヶ池八幡宮」と称されるようになりました。また、御神体である衣冠束帯姿の木造坐像は、暦応4年(1341)に「藤原吉高朝臣」という人によって彫られた像で、年次による本像としては市内最古のものとして市の指定文化財となっています。

⑧ 道保川公園



道保川公園は、道保川の水源地及び横山丘陵の自然を今後とも緑地として保全しながら、水と緑が一体となった自然とのふれあいの場として活用するために、風致公園として整備し、平成2年に開園しました。平成8年7月には、環境庁の「残したい日本の音風景100選」に認定されました。

⑨ 清水家旧主屋・長屋門

19世紀中頃の建築と推定され、市登録有形文化財に登録されています。主屋は上原屋敷に特有の六間取と呼ばれる大型のもので、屋根は土間側を庇造としています。長屋門は桁行65尺の長大なもので、堂々たる母屋にふさわしいものです。なお、庇造は県北にしかみられないもので、当家はその南側と思われます。注：外からの見学はできません。屋敷内に立ち入ることはできません。20分の1の模型が相模原市立博物館に展示されています。

